

偏西風に乗せて

— 柔道整復師に課せられた伝統医療技術を継承させる責務 —

公益社団法人 香川県接骨師会 浪尾 敬一

平成 25 年 2 月 22 日の夜、北半球の中緯度帯を流れる偏西風に逆らって約 6 時間の飛行の後、モンゴルの主都ウランバートルから南西 10 kmにあるチンギスハーン空港に降り立ちました。私にとって 5 回目の日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成普及事業の始まりです。

私は、柔道整復師の先輩たちから柔道整復の知識と技術を継承させて頂きました。私を教育して下さいました柔道整復師に対して尊敬と憧れの念を持ってきました。いつかは先輩のように柔道整復術を継承するに値する柔道整復師になりたい、と思ってきました。その思いが叶ってか、（道の途中の身で恐縮ながら）日本柔道整復師会国際部の先生方のサポートを頂きながらここモンゴルの地で、継承させて頂いた知識と技術に自分なりの情熱を加えて教壇に立たせて頂くことが出来ました。



【写真 1】モンゴル健康科学大学附属医療技術大学の教室にて

4,900 年以上の歴史を誇る東洋医術は、ユーラシア大陸で発達し、その医術が西から東に（すなわち日本にも）伝来されました。その伝来され日本で発展した日本伝統治療（柔道整復術）を、反対方向の東から西へと普及するこのプロジェクトは、はるかな時間と距離を超える壮大な旅のように私は感じています。

滞在中にモンゴル保健省の副大臣とお話した際にとっても印象的な言葉がありました。「モンゴルの地方では骨折や脱臼などの外傷が多いですが、医療環境や道路環境が十分でなく日本の柔道整復術をモンゴルの国は必要としています。どうか日本の柔道整復術をモンゴル民族のために普及して下さい」。続けて悲しい顔をなさってこう言われました。「モンゴルにも柔道整復術と同じような接骨術がかつて存在しました。けれど大変残念なことに70年前に途絶えてしまったのです」。大切な治療技術が死んでしまった…という意味に私には聞こえました。



【写真2】モンゴル保健省にて アマルサナ副大臣と（向かって右から2人目 筆者）

柔道整復術という伝統医療技術が柔道整復師から柔道整復師へと継承されていることの大きな意味をモンゴルの地で教わったように感じました。医療技術とは生き物なのだと思います。不幸な歴史に翻弄された結果とはいえ、モンゴルでは何千年もの長い期間を人から人へと大切に伝えられた伝統医療技術が突然途絶えるということが起きてしまいました。それがモンゴル国民にとっていかに大きな損失であったのかを知りました。世界を見渡すと国民皆保険制度があり、高度医療がほとんどの国民に行き渡るという日本のような国はまったく例外的です。世界レベルで考えると多くの国では、柔道整復術のようなローコストで効率的な医療を必要としています。

本プロジェクトに参加させて頂いて、柔道整復師であることに改めて大きな誇りを感じています。先人の技術を継承した柔道整復師として、柔道整復という伝統医療技術を護り発展させ、次世代にバトンを繋げたいと思います。